

# 留学報告書

記入日: 2013年09月15日



所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部 国際日本学科
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	メンフィス大学 University of Memphis
留学期間	2012年08月～2013年05月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2013年08月19日
明治大学卒業予定年	2015年03月
<b>留学先大学について</b>	
形態	公立
学年暦	1学期: 8月下旬～12月中旬 2学期: 1月中旬～5月上旬
学生数	21,000人
創立年	1912年

留学費用項目	現地通貨 (\$1=¥90で計算)	円	備考
授業料			明治大学国際日本学部の授業料を支払う
宿舍費	5,980ドル	約538,200円	1 Semesterにつき2,990ドル
食費	約1,300ドル	約117,000円	前期はミールプラン。後期は自炊。
図書費	約800ドル	約72,000円	授業テキスト
学用品費	約15ドル	約1,350円	
教養娯楽費	約3,500ドル	約315,000円	アメリカ国内旅行費、ダイビング一式、交際費など
被服費	約600ドル	約54,000円	
医療費	約350ドル	31,550円	予防接種(日本)、結核の検査(現地)
保険費	約1,439ドル	129,560円	11ヶ月分
渡航旅費	約5,681	511,300円	ワンワールド世界一周航空券4大陸
雑費	約100ドル	約9,000円	
その他		円	
合計	約19,765ドル	約1,778,850円	

## 渡航関連

**渡航経路:** 成田→シカゴ→メンフィス

渡航費用

チケットの種類: ワンワールド・エクスプローラー世界一周航空券

往路

復路

合計: ¥511,300

**渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。**

あるきっかけから、世界一周航空券の存在を知りました。その後はどのように留学からの世界一周を実現させるかの情報収集のために、世界一周旅行を専門に扱った「世界一周堂」で仮ルートを作ったり(無料)、その他世界一周経験者による団体「たびぽぽ」主催のイベントに顔を出したりしました。最終的な相談や手続きは、手数料のかかる代理店を通さずに、チケット発行元の JAL の代理店に直接伺い、電話で済ませました。他の代理店を通さずとも、JAL さんの方で親切な対応をしてくれます。

## 滞在形態関連

**1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)**

大学寮

**2)部屋の形態**

相部屋(同居人数 4人)

**3)住居を探した方法:**

メンフィス大学にはいくつかの寮がありますが、留学生が寮に住む場合は、皆、Carpenter Complex という寮に住むことが予め決められています。

**4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)**

Carpenter Complex は現地の学生にも人気の寮で、普通3、4年生が優先的に入れることとなっているので、1、2年生が入ることは難しいそうです。人気の理由は、4人で共同生活とは言え、各生徒に個室が与えられ、4人の共同スペースにキッチンとリビングが付いていて4人で自由に広々と暮らせるからです。普通、アメリカの大学で大学寮と言えば、ひとつの部屋を二人でベッドと机を各々置いて使うというスタイルがスタンダードですが(もちろん、キッチンはフロアか、建物で共同)、Carpenter Complex ではまるでシェアハウスのような感覚で住むことができます。また、先ほど述べたようなスタンダードな寮では、キッチンが完全に共同であるため、ミールプランというカフェテリアで食事をするための券を買うことが義務化されていますが、Carpenter Complex では4人でひとつのキッチンが与えられているため、ミールプランはオプションです。私は、前期はミールプランを頼みましたが、そもそもカフェテリアが寮から遠く、夜ご飯を食べにわざわざカフェテリアにまで行くのが面倒なこと、カフェテリアの食事があまりバラエティーに富んでおらず、一ヶ月もすると飽きてしまったこと、日本食が恋しくなってしまうこともあり、後期からは自炊をすることにしました。寮のキッチンは広く、時によっては交流の場ともなるので、私個人的な意見としては、自炊をされることをおすすめ致します。

## 現地情報

**1)現地で病院にかかったことはありますか?大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?**

利用する機会が無かった

**2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。**

分からないことや困ったことがあれば、国際事務室の交換留学担当レベッカさんにメールを入れたり、彼女のオフィスに行きました。しかし、彼女の対応はさほど親切なものではありませんでした。こちらが要求していることには最低限対応してくれるものの、異国で暮らす留学生を真摯にサポートするという大切な任務をこなしているとは思えませんでした。日本から様々な留学の手続きをする際にも返信が遅く、困惑しました。オフィスにいないことも多いので必ず、メールでアポを取ってからオフィスを訪れるようにしました。あまり親切なサポートを受けることができなかつたため、逆に自立心は身についたかもしれません。

**3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?**

メンフィスは決して、治安のよい場所ではありません。あまり、警戒しすぎるのもよくありませんが、無防備ではいけません。大学には、アラームの付いている柱が何メートルかごとに立っています。キャンパス内で何かが起こったら、そのボタンを押すことで警察に繋がります。私は、試験前等に図書館で夜遅くまで勉強した際には、キャンパスパトロールカーを電話で呼んで寮まで送ってもらうことで、夜一人で歩くことを避けました。まず、キャンパスの外を一人で歩くようなことは絶対にしませんでしたし、現地の友達と出かけて帰りが遅くなってしまった際には、友達が寮の目の前まで送ってくれ、私たちの安全に気を配ってくれていました。私は盗難にはあったことはありませんでしたが、現地で知り合った日本人留学生が、後期からは寮ではなくシェアハウスに住み始めた際、泥棒に入られ、パソコンと時計を盗まれた事件に見舞われました。キャンパス付近は以前に比べて治安がよくなってきているようですが、キャンパスからあまり遠くないところにゲッターがまだ存在していることを、その学生は把握していなかったことで、そういった事件に巻き込まれてしまいました。私は、危険地域情報は現地の友達から得ることが多かったのですが、私たち留学生が自分たちで得られる情報というのは限られていますので、新しい場所に行く際には、気を抜かず情報収集を怠らないように心掛けることが大切だと思います。

<p><b>4)パソコン, 携帯電話, インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。</b>  (例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)</p> <p>インターネットは University of Memphis の学生なら全員持っているユーザー名とパスワードを入力することで、キャンパス内ではどこでも大学の wifi に繋いで使用することができます。寮のインターネット接続は雨が降ると悪くなりますし、個室に入ると電波が悪かったりしますが、その場合は比較的電波の良いリビングでパソコンをしていたので、大きな問題はありませんでした。図書館や他の施設にもパソコンはありますので、印刷等はそこで行っていました。携帯は、電話とテキストメッセージのみができる最低限の機能がついたものを購入して、現地の人との連絡に使っていました。私は大学で紹介された Docomo USA という会社が提供しているサービスを日本で契約しましたが、現地で携帯を購入した友人は、もっと安く済んでいました。</p>
<p><b>5)現地での資金調達はどうに行いましたか？(例:現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)</b></p> <p>現金 1,000 ドル (10万弱) を持参していき、カードが使えるときは必ずクレジットカードを使用するようにしていたので、現金は持参した 1,000 ドルで足りました。ちなみに、もし現金が足りなくなった時のために、ゆうちょのクレジットカードに国際キャッシュカード機能を付けてから日本を出国しました。この国際キャッシュカードを持っていれば、世界中どこかの ATM からでもその国の通貨で現金を下ろすことができるので、とても便利です。</p>
<p><b>6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬：薬に関してはやはり日本で慣れ親しんでいるものを持っていくことをおすすめします。</li> <li>・2,3 日分は暮らせる程度の最低限の生活用品 (シャンプー、ボディーソープ、洋服など)：空港に迎えに来てくれる学生が面倒見の良い人とは限りません。私の場合、空港から寮まで送ってくれただけで、その後すべきことや生活面での注意点などの説明もすることなく早々に引き揚げてしまいました。一方、他のサポーターは、国際事務室まで案内するなど親切な対応をしていました。留学生オリエンテーションの日には、買い物に連れて行ってくれますが、到着日からオリエンテーションの日まで日にちがある場合は、最低限暮らせるものを予め持っていくことをお勧めします。近くのスーパーは買い物した荷物を持って歩くにはかなりの距離があります。</li> </ul>

## 進路について

<p><b>1) 進路</b></p> <p>その他：進級 (これから就職活動をします。)</p>
<p><b>2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など</b></p>
<p><b>3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)</b></p>
<p><b>4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。</b>  (例:留学中の就職活動に向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)</p>
<p><b>5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。</b></p>
<p><b>6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。</b></p>
<p><b>7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。</b></p> <p>2年生の後期から3年生の前期という期間に留学することで就活に遅れが生じることがありません。一年間留学していても、4年間で卒業が可能だということです。この場合、大学入学後すぐに留学の準備に取り掛かる必要があります。</p>

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
27 単位	未定 単位認定の申請はしません(理由: )
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to African / African American Study	アフリカ人、アフリカ系アメリカ人学入門
科目設置学部・研究科	AAAS(African/ African American Study)
履修期間	1 セメスター
単位数	3 単位
本学での単位認定状況	未定
授業形態	少人数講義形式
授業時間数	1週間に 55 分 が 3 回
担当教授	Dr. Kaylin Turner Ewing
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフリカ系の人々のディアスポラ、またその歴史。</li> <li>ルネッサンス以降にアフリカ系の人々のディアスポラが与えた影響。</li> <li>・アフリカ人、アフリカ系アメリカ人女性が受けた経験への批評。</li> <li>・アートから読み取るアフリカ系の人々の歴史</li> </ul>
試験・課題など	Reflection Paper(授業の内容を踏まえて自分の考えたことを書く)は2週間に1回、テストがあるときでも例外なく出さなくてはなりません。記述形式のみの Mid-term と Final Exam 以外に、African American の文化や歴史を踏まえて書かれたペーパーバック2冊に関する試験も記述で行われるという、他のどの授業よりもハードな授業でした。
感想を自由記入	本当は取るつもりがなかった授業だったのですが、希望の授業が取れず、テネシー州が南部に位置し、黒人の歴史が今でも根強く残る地域だったこともあり、この授業を履修することにしました。日本から来た私は分からないことばかりでしたが、生徒の興味を引き出すような授業をする教授のおかげで、授業に面白さを見出しました。授業後分からないことを聞きに行けば、教授は丁寧に教えてくれますし、留学生の私を配慮してくれていたと思います。朝8時からという早朝の授業だったため人数は15人程でしたが、毎回たくさんの発言がありました。また、私は英語の授業を特に取っていなかったため、レポートを書くいい訓練にもなったと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Cultural Anthropology	文化人類学
科目設置学部・研究科	ANTH (Anthropology)
履修期間	1 セメスター
単位数	3 単位
本学での単位認定状況	未定
授業形態	講義形式
授業時間数	1週間に 85 分 が 2 回
担当教授	Dr. Charles Williams
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人類の文化の起源と歴史。</li> <li>・社会関係、言語、政治、宗教、儀式。</li> <li>・国家が発達するにつれて引き起こされる問題、現代世界における少数派グループの問題。</li> </ul>
試験・課題など	試験は合計で1セメスターに5回。4択形式のテストが4回と、記述式と4択形式で構成される期末試験で成り立っています。先生の判断によって、クラスのテストの成績が振るわないと思われた場合には、再度テストが課されます。試験前には、テストの範囲を丁寧に示してくれている StudyGuide というものを用意してくれるので、それをもとにしっかりと勉強すれば高得点を取れるシステムになっています。
感想を自由記入	とにかく、この授業の担当教授である Williams 教授が素晴らしい先生です。面白い授業をするだけでなく、一見その強面な表情からは想像できないほど生徒のことを考えてくれている先生で、生徒からも人気です。おすすめの授業です。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Jazz Dance 1		ジャズダンス1	
科目設置学部・研究科	DANC (Dance)		
履修期間	1 セメスター		
単位数	2 単位		
本学での単位認定状況	未定		
授業形態	実践型		
授業時間数	1週間に 85 分が 2 回		
担当教授	Dr. Wayne Marshall Smith		
授業内容	現代ジャズダンス基礎		
試験・課題など	中間試験と期末試験は実技です。そこではダンスの上手さを見られるのではなく、授業で習ったことに注意しながら踊れているかという点が見られます。また、先生が紙にリストアップした、ダンスをベースとしたパフォーマンスいくつかの中から2つのパフォーマンス選んで見に行き、そのうちの1つについてレポートを書くという課題が出ました。私は、その機会を利用してメンフィスのダウンタウンにある劇場で行われたブルーマンのミュージカルを見に行きました。		
感想を自由記入	もともと明治大学でジャズダンスサークルに入っており、スキル維持のために続けたいと思い受講を決めました。とはいえ、私も初心者であったので、備わったリズム感が違う現地の学生についていくのはとても大変でしたが、体を動かしてよい気晴らしになりました。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to Business		ビジネス入門	
科目設置学部・研究科	MGMT (Management)		
履修期間	1 セメスター		
単位数	2 単位		
本学での単位認定状況	未定		
授業形態	講義形式		
授業時間数	1週間に 55 分が 2 回		
担当教授	Dr. Julie A Yancey		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な組織の認識、ビジネスにおける様々な過程、ビジネスの基本的な理念</li> <li>・ビジネスの機能的な範囲とマネジメント活動の調査</li> <li>・主なビジネスキャリアの雇用機会と、その選択</li> </ul>		
試験・課題など	試験は1セメスターを通して4つのテストと期末試験の5つになりますが、どれもさほど難しいとは感じません。テキストを読みこまなくても、用語だけチェックしておけばテストは簡単です。期末試験は、4つのテストの得点を平均して成績が良いと判断されると免除になります。		
感想を自由記入	この授業は他の授業と比べると、とても退屈でした。先生が講義で話すことは、ほぼ教科書と通りで授業自体に独自性がないからです。それでも、米大手企業である Fedex からゲストが来てお話を伺うという良い機会がありました。		

履修した授業科目名(大学言語):		履修留学先した授業科目名(日本語):	
Elementary Spanish 1		スペイン語初級 1	
科目設置学部・研究科	SPAN (Spanish)		
履修期間	1 セメスター		
単位数	3 単位		
本学での単位認定状況	未定		
授業形態	講義形式		
授業時間数	1週間に 55 分が 3 回		
担当教授	Dr. Harriet S Skupin		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペイン語の基礎文法</li> <li>・スペイン語圏の文化</li> </ul>		
試験・課題など	課題には、毎回授業で習った単語や文法を使って5文書き提出する簡単なものと、月に一度の締切日までにこなすオンライン学習システムを使って提出のもの2つがあります。試験は4つのテストと期末試験の合計5つです。試験はオンラインの課題をしっかりとこなし、直前に少し見直しをすれば十分なレベルの問題です。		
感想を自由記入	留学前、大学1年の時に1年間、スペイン語を取っていたものの、完全に気嫌いしてしまったため、リベンジとして履修することになりました。私にとっては第二外国語である英語でほかの外国語を習うということには不安もありましたが、先生の教え方もとても丁寧で、テキストも良質だったため、スペイン語の学習を大分楽しめるようになりました。また、週3回もスペイン語に触れることができたので、習得しやすくもありました。テキストがオンライン学習システムと連携しているため、いつでもスペイン語の正しい音声を聞きながら学習できたため、学外でもしっかりとスペイン語を学ぶことができました。		

<b>履修した授業科目名(留学先大学言語):</b>		<b>履修した授業科目名(日本語):</b>	
Theories of Persuasion		説得法論	
<b>科目設置学部・研究科</b>	COMM (Communication)		
<b>履修期間</b>	1 セメスター		
<b>単位数</b>	3 単位		
<b>本学での単位認定状況</b>	未定		
<b>授業形態</b>	講義形式		
<b>授業時間数</b>	1週間に 85 分が 2 回		
<b>担当教授</b>	Dr. Craig O Stewart		
<b>授業内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の行動や態度に影響を与えるように作られているコミュニケーションの原理</li> <li>・意欲、認識、メッセージの構成、注目、論理付け、聴衆分析、説得力へのアプローチ</li> <li>・スピーチ、広告、ラジオ、テレビ、映画の分析</li> </ul>		
<b>試験・課題など</b>	1セメスターに試験は2つで、最後に期末課題としてプレゼンテーションが課されました。試験の形式は四択問題と記述式が合わさったものでした。プレゼンテーションの準備にはとても時間がかかり、自分で広告、web バーナー、そしてプロモーションビデオを作った上で、ワードで7~10ページのペーパーを出さなくてはなりませんでした。		
<b>感想を自由記入</b>	先生がそれぞれ、その場面で使われるコミュニケーションの方法を説明、解説したあと、生徒たちに具体的な例としてどのようなものが挙げられるかを問う際、アメリカの CM や TV 番組や政治を知っていないと、他の生徒が言っていることがよく分からない時や、自分でも具体例を挙げられない時があり大変でした。それでも、期末試験として課されたプレゼンテーションは、人の前で説得力を持って発表する良い訓練になりました。しかし、これは留学中一番つらい課題だったと思います(笑)		

<b>履修した授業科目名(留学先大学言語):</b>		<b>履修した授業科目名(日本語):</b>	
Modern Asia		現代アジア	
<b>科目設置学部・研究科</b>	HIST (History)		
<b>履修期間</b>	1 セメスター		
<b>単位数</b>	3 単位		
<b>本学での単位認定状況</b>	未定		
<b>授業形態</b>	講義形式		
<b>授業時間数</b>	1週間に 55 分が 3 回		
<b>担当教授</b>	Dr. Catherine L Phipps		
<b>授業内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1800 年代から現在までのアジアの歴史</li> <li>・植民地に対するアジアの反応</li> <li>・インド、日本、中国、東南アジアにおける国民国家の興隆</li> </ul>		
<b>試験・課題など</b>	試験は、中間試験と期末試験のみ。どちらも記述問題。課題は2冊のアジアの歴史に関連している本を読んで、それぞれ自分の考えを A4 用紙3枚ほどでまとめる。		
<b>感想を自由記入</b>	日本や周辺国であるアジアのことに、外からの視点を持って改めて学ぶことができ面白かったです。また、アメリカに住んでいる現地の学生がアジアのことに色々々を知っていて、様々な考えを持っていることに驚きました。私が日本で高校までに習ったことは暗記という要素が大きくて興味があまり持てませんでした。この授業でより深く考えることができ学ぶところが多かったです。		

<b>履修した授業科目名(留学先大学言語):</b>		<b>履修した授業科目名(日本語):</b>	
Scuba		スキューバダイビング	
<b>科目設置学部・研究科</b>	PHED (Physical Education)		
<b>履修期間</b>	1 セメスター		
<b>単位数</b>	2 単位		
<b>本学での単位認定状況</b>	未定		
<b>授業形態</b>	実践型		
<b>授業時間数</b>	1週間に 240 分が 1 回		
<b>担当教授</b>	Mr. Harriette J Lavenue		
<b>授業内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキューバダイビング・オープンウォーターのライセンス取得に向けてのレッスン</li> <li>・器具の取り付け方、取り外し方</li> <li>・器具の使い方</li> <li>・ダイビング中、人間の体にあたる影響とその回避</li> <li>・ダイビング中のアクシデントへの対応</li> </ul>		
<b>試験・課題など</b>	筆記試験はライセンスを取るため、80点以上取らないと取れるまで何度も試験を受けなければなりません。宿題は毎回の授業までに、次の授業で取り扱うテキストの項目を読みながら、問題を回答して行くことになっています。ライセンス取得は授業の必須項目ではありませんが、そのためにほとんどの人が受講しているので、皆授業で紹介されるライセンス取得の合宿に参加します。(別途3万円ほど)これは、学校の成績とは関係ありません。		
<b>感想を自由記入</b>	ダイビングの授業はキャンパス外で行われるので、車を持っている友達と一緒に受講しない限り難しいかもしれません。一度覚えてしまえば難しくはないですが、身体的な説明や機器の単語など、すべてを英語で理解しなくてはならなかったため、最初のころは大変でした。		

<b>履修した授業科目名(留学先大学言語):</b>		<b>履修した授業科目名(日本語):</b>	
Elementary Spanish 2		スペイン語初級2	
<b>科目設置学部・研究科</b>	SPAN (Spanish)		
<b>履修期間</b>	1 セメスター		
<b>単位数</b>	3 単位		
<b>本学での単位認定状況</b>	未定 単位認定		
<b>授業形態</b>	講義形式		
<b>授業時間数</b>	1週間に 55 分が 3 回		
<b>担当教授</b>	Dr. Margaret Ann Spires		
<b>授業内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペイン語の基礎文法</li> <li>・スペイン語圏の文化</li> </ul>		
<b>試験・課題など</b>	月に二回のペースでオンライン学習システムを通しての課題提出と、テストが行われる。オンラインの課題は毎回量が多いので大変でしたが、語学学習の観点から言うとこの訓練が非常に役に立ったと思います。これに加えて、大体月に一回、その月に習ったことのまとめとして大きな試験が課されます。		
<b>感想を自由記入</b>	アメリカでは、もともと世界共通語の英語が母国語であるためか第二外国語の勉強を真面目にしない生徒が多かったように見受けられました。私は、アメリカの教育で与えられる、素晴らしい教授法や教材の良質さに感動ばかりしていたのですが、周りの生徒がいつも文句ばかりを言っているのがとても気になりました。英語でさらに外国語を習うことへの私の懸念は一蹴され、逆に日本語よりも、スペイン語に近い英語で習うことで理解を深められたと思います。		

<b>履修した授業科目名(留学先大学言語):</b>		<b>履修した授業科目名(日本語):</b>	
Introduction to Women/ Gender Study		女性のジェンダー論入門	
<b>科目設置学部・研究科</b>	WMST (Women's Study)		
<b>履修期間</b>	1 セメスター		
<b>単位数</b>	3 単位		
<b>本学での単位認定状況</b>	未定		
<b>授業形態</b>	チュートリアル		
<b>授業時間数</b>	1週間に 85 分が 2 回		
<b>担当教授</b>	Dr. Giovanni Nicholle Dortch		
<b>授業内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な人種の女性がかかえる問題</li> <li>・現代の性の問題</li> <li>・様々なアプローチから女性について考える</li> </ul>		
<b>試験・課題など</b>	試験はありません。月に1回のペースでペーパーの課題が出されます。期末試験はプレゼンテーションです。		
<b>感想を自由記入</b>	この授業は毎回ディベート式で行われていました。毎回の授業は宿題として課されたリーディングの記事を基に進んでいきます。このリーディングをこなしていくのが、なかなか大変でした。		

## 留学に関するタイムチャート

留学までの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(形式は箇条書きなど簡単なもので構いません)

2012年 1月～3月	12月21日までに協定校留学の合否が決まり、この期間は留学に関することはひと段落。 大学の期末試験に専念し、その後の春休みを満喫。
4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パスポート、VISA 取得</li> <li>・予防接種</li> <li>・留学先の大学に各種書類提出</li> <li>・航空券購入</li> <li>・奨学金応募</li> <li>・渡航前オリエンテーション</li> </ul>
8月～9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月22日メンフィスへ出発</li> <li>・留学生オリエンテーション</li> <li>・ウェルカムパーティー</li> <li>・前期授業開始</li> <li>・日本舞踊のチームに参加</li> </ul>
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋休み(10/13-16)</li> <li>・中間テスト</li> <li>・International Student Conference に参加</li> <li>・ハロウィーン</li> <li>・日本語チューターのバイト開始</li> <li>・Thanksgiving Holiday(11/22-25)</li> <li>・期末試験</li> <li>・冬休み(12/14-1/16)</li> </ul>
2013年 1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NY とオーランドに旅行</li> <li>・後期授業開始</li> <li>・春休み(3/11-17)</li> <li>・Sakura Festival で日本舞踊を披露</li> </ul>
4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験</li> <li>・ダイビングの授業で資格取得</li> <li>・留学終了</li> <li>・世界一周旅行開始</li> </ul>
8月～9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界一周旅行</li> <li>・日本帰国</li> <li>・明治大学復学</li> </ul>